

【議題】

あいさつ

- 1 スタートアップ助成事業[新規]の審査について
- 2 調査研究テーマ「基金事業の検証」について
- 3 調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」について
- 4 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 内藤委員 根本委員 中島委員 石垣委員  
石川委員 杉崎委員 牛山委員 山本委員

地域力推進部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員 区民協働担当 2名

【会議録】

事務局 定刻になりましたので、平成26年度第2回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。  
本日、委員名の10名の方にご出席していただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。  
なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。  
それでは、この後は会長に進行をお願いします。

会長 《会長あいさつ》

部長 《部長あいさつ》

会長 それでは、スタートアップ助成事業[新規]の審査について事務局から説明をお願いします。

—地域力応援基金助成事業 スタートアップ助成の審査の部分は非公開—

会長 次に調査研究テーマ「基金事業の検証」について、事務局から説明をお願いします。

支援員 基金事業の検証を行うのは初めてではなく、前期の平成23年度に検証作業を行っており、内容については、昨年4月第1回目の会議で報告書を配布し、説明を行いました。この時は平成21・22年度に終了している事業を対象とし全部で12事業でした。これを検証した結果、スタートアップ事業とステップアップ事業の意味合いを明確化しようというのが、大きな見直し内容となりました。スタートアップ事業は、概ね設立5年以内、ステップアップ事業は、概ね5年以上の団体を対象にするという区切りができたのはこの時です。その際、検証作業の中で、特にスタートアップ事業に関しては、会議出席者に会議費を支払うなど助成金をもらっている時しか出せないようなお金の使い方が見られました。このスタートアップ事業は基礎体力をしっかりと持

ってもらいたいということで意見がまとまり、人件費的なことは対象外という見直しも同時に行いました。スタートアップ事業で基盤を整え、次にステップアップ事業を使う時までには2年間の間を空けてもらうという見直しも行っています。

今回は平成25年度までに終了している58事業を検証対象としていきたいと考えています。検証の視点としては、皆様からいただいた意見で大きな所は、団体の自立ということの考え方、スタートアップ事業は団体の基盤を整えることが目標となり、ステップアップ事業は、その団体が発展し、より自立していくことが目標となります。この自立に繋がるような事業を応援することになっていますが、自立とは何かという意見をいただいています。自立に繋がる助成金の使い方のあるべき姿とはどのようなものかというのが、実は描けていないという現状がありますので、そのあたりを皆さんで議論いただくことが重要であると思います。

また、助成金額についてですが、スタートアップ事業の50万円は多いのではないかと意見をいただいております。大田区では、ステップアップ事業は300万円が上限となりますが、これについても他自治体に比べると高額であると思いますので、上限についても検証した方が良いとの意見がありました。同一年度に新規と継続が重なってしまう事例がありました。スタート・ステップが連続している事業が過去3件ありましたが、見直しを行っているので現在は出さないことになっています。しかし、この3つの団体は現在とても活躍しており、助成金を活用して成長した代表的な団体となっていますので、連続申請についてはもう一度検証を行う必要があるかもしれません。各々の助成金の役割の見直しについては行っていますが、これまでにスタートアップ事業に連携協働を強く求めすぎるのはいかがなものかという意見もありました。現在のところ、どの事業についても連携協働については大田区の大きく重視している点ではありますが、スタートアップ事業については、少し軽くするなどメニューの違いが必要かもしれませんので、議論の対象になろうかと思えます。

審査体制ですが、他の自治体と比べ大田区は行政職員の数が多いというのが特徴であると思います。実際に審査された方が、区民と職員の審査内容に明確に違いがあるという指摘もいただいています。委員の人数や構成について、推進会議委員の数名が審査するということになっていますが、単独で審査する方法に変えてもいいのではないかと意見もいただいていますので、審査体制についても大きな論点になると思います。

今お話したすべて団体に聞くということではなく、論点として出した自立と助成金額の上限のことあたりを中心に聞いてはどうかと考え、本日は調査票を提示しています。A4両面で項目としてはこれ位の分量で調査を実施していきたいと思えます。問1は助成が終了した事業が現在どうなっているか。問2は助成金の活用は自立という観点でどのような役割を果たしたか。問3は助成金額について多いか少ないか。問4は資金面以外のあってよかったあるいはあるとよかった支援としてはどんなものがあるか。問5はこの助成金全般についての自由記述としています。

スケジュールとしては、この内容でご意見をいただき、手直しをした上でできれば早く調査に着手したいと思います。次回7月は途中経過報告10月にはデータが揃っていると思えます。アンケートだけでは拾えないところは、一つ二つピックアップしてヒアリングなどでより詳しく情報収集し、根拠となる材料を提供しますので議論をお願いしたいと思います。

委員 論点がとても整理されていて、調査内容が論点と一致していると思えます。気になったのがアンケート調査対象は実施団体だけを想定していますか。せっかくこのような調査を行うのであれば、職員の方の意見やこの推進会議委員の意見など実施団体以外にも行った方が良いのではないですか。

委員 この事業検証を行うのであれば、応募団体も対象にした方が良いと思えます。

支援員 何を聞くかによると思えます。助成金の使い方、申請のし易さ、公開プレゼンについ

てなどであれば、不採択団体にも聞かなくてはいけないと思いますが、今回は、先程の論点で言えば、実施した団体に事業が継続しているか、自立に繋がっているかなどを聞きたいので、実施団体を対象としていくのが良いと考えます。

会長 この助成金を活用して事業を行いました。現在も継続しており、助成金は事業を拡大するきっかけとなりました。

委員 質問の中に、自立後の資金調達の手法があると他の団体にも自立のヒントになるのではないのでしょうか。他の助成金を受ける、企業との連携で自立を図っているところなどがあると思います。

委員 これは自己評価になりますか。そうであれば、事業として根付いているかなど第三者が評価しないといけないのではないのでしょうか。

支援員 現時点では把握することで進めていきたいと考えています。

課長 検討していく中で、必要であれば次のステップとして行えば良いと思います。現時点では実施事業がどのようになっているかをお聞きし、検証材料にできればと考えます。

会長 それでは、時間がせまっておりますが、調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 前回からの進捗状況の報告です。  
六郷地区では、手を挙げた町会へヒアリングを行っています。ヒアリング終了後、六郷地域力推進センターを中心としたモデル事業実施の検討を行っていくこととなります。次回に事業申請についての資料を準備し、皆様にお示ししていきたいと考えております。  
雪谷地区・蒲田地区については、ホームページを活用した情報発信を検討しています。ホームページをいきなり作るのではなく、オーちゃんネットを活用してみることを勧めたところ、デモンストレーションをして欲しいとの依頼がありましたので、今月中に出かけることになっています。

委員 7月の推進会議でモデル事業を提案され、いつから始まり、いつまで行うのですか。

事務局 推進会議で審議後、区長推薦を行います。事業実施は9月以降になるのではないのでしょうか。今年度については来年の3月31日までで終了となりますが、継続の可能性もあります。モデルとなるような形で実施できれば、他地区にも拡大していくことができると良いと考えております。

会長 それでは、次回の推進会議程を決めたいと思いますので事務局からお願いします。

〈 第3回 区民協働推進会議 7月15日(火) 開催 〉

会長 それでは、これで審議を終了させていただきます。  
皆様、本日はありがとうございました。事務局よろしく申し上げます。

事務局      これで、本日の会議は終了です。お疲れ様でした。  
《 終      了 》